

# 障がいがある方の目となり耳となる



各種制度や障がい者が利用できるサービスなどの音声情報をCDに録音して、視覚障がい者に配布しています。

毎月1日と15日に発行している「広報えびな」の情報を「声の広報」「点字の広報」にして視覚障がい者に届けています。「声の広報」はホームページで聞くことができます。



「声の広報」はCDにして読者にお届け

Net119

音声で119番通報が困難な方のために、スマートフォンや携帯電話などから文字で通報できる登録制のシステムです。利用希望者は、障がい福祉課または警防課 ☎(231)0921、☎(234)7541へ。



ボタン操作で通報ができる

視覚や聴覚に障がいがある方は、日常生活で不便を感じたり、危険を感じたりすることがあります。市内には約200人の視覚障がい者と、約280人の聴覚障がい者がいます。市の取り組みや、障がい者に寄り添い目となり耳となって支えるボランティア団体の活動、私たちにできることを紹介します。

手話通訳者・要約筆記者を市から派遣

聴覚障がい者が公的機関や病院などに行く場合に、手話通訳者・要約筆記者を派遣しています。

手話通訳者が市役所に常駐 手続きを手話で通訳

市役所の障がい福祉課窓口には手話通訳者が常駐しています。手続きの案内を手話で通訳します。

## 目となり視覚障がい者を支える団体

視覚に障がいがある方を、目となり支えているボランティア。それぞれの団体の会長に活動内容を聞きました。

### 「安全」「安心」「快適」に目的地まで誘導します

海老名市誘導ボランティア 虹の会 (会員32人/平成7年発足)



誘導の様子(イメージ)

視覚障がい者が外出する時に目的地まで誘導するボランティアです。外出のニーズはさまざま、通院や散歩をはじめ、趣味の活動に同行することもあります。誘導は利用者に肘のあたりを軽くつかんでもらい、状況を説明しながら歩調を合わせて行きます。利用者からの「気軽に出掛けられるようになった」「行動の幅が広がった」などの言葉はとても励みになります。視覚に障がいがある方は白杖を携帯しています。見かけたら「何かお手伝いしましょうか?」など、積極的な声掛けをお願いします。



虹の会会員が誘導中に着けるバッジ

視覚に障がいがある方が外出時に携帯する「白杖」

### 読書の楽しさと情報を点字で伝えます

海老名市点訳グループ みのりの会 (会員48人/昭和52年発足)

視覚障がい者に読書の楽しさと情報を届けるため、書籍や「広報えびな」などを点訳しています。点訳は点字板で1文字ずつ手打ちする方法と、パソコンで入力し、専用のプリンターで出力する2種類の方法があります。パソコン点訳のおかげで、作業時間が大幅に短縮できました。現在は手打ちとパソコンの同時進行で点訳を仕上げ、希望された視覚障がいがある方にお届けしています。このほか、地図や図面など物の形を手で触れて確かめられる「触図」や、弱視の方のための拡大写本も製作しています。苦戦することといえば、今はやりの「短縮言葉、やメールアドレス、URLの点訳でしょうか。

市内の小学校の「ふくし教室」で啓発・指導も行っています。



点字板で1文字ずつ丁寧に手打ち



入力した点字を専用プリンターで出力するパソコン点訳

### 「活字」を「声」にして届けます

海老名市音声訳ボランティア 矢ぐるまの会 (会員33人/昭和52年発足)



編集会議で読み方やアクセントを確認

活字を読み上げ、広報誌の内容などを伝える音声訳をしています。「広報えびな」や「ぬくもり通信社協えびな」のほか、まちの話題や生活情報などの音声訳CDを希望者に提供しています。広報誌1号あたりの作業量は10人で3日間ほど。「目が不自由=点字」と思われがちですが、成人後に視覚障がいになる方も多く、誰もが点字を読めるわけではありません。

もっと多くの情報を知ってもらうため、録音図書を作成や対面朗読の要望にも応じています。活動が浸透してもっと利用者が増えればうれしいです。



専用の部屋でパソコンを使って録音作業

「とも」に認め合います。海老名市

障がいへのあらゆる差別をなくし、人々が互いに認め合い、支え合うことを目指す障がい者施策の市の基本理念です。リーフレットを障がい福祉課で配布しています。